

課題番号：29-2

研究課題名：心身症・摂食障害の治療プログラムと臨床マーカーの検証

主任研究者：安藤哲也（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所行動医学研究部）

分担研究者：関口敦（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所行動医学研究部）、菊地裕絵（国立国際医療研究センター病院心療内科）、須藤信行（九州大学大学院医学研究院心身医学）、福土審（東北大学大学院医学系研究科行動医学分野）、吉内一浩（東京大学大学院医学系研究科ストレス防御・心身医学）、河合啓介（国立国際医療研究センター国府台病院心療内科）

## 1. 当年度の研究成果

1) 神経性過食症（BN）に対する摂食障害の認知行動療法改良版 Enhanced Cognitive behavior therapy (CBT-E) の多施設共同の無作為化比較試験（RCT）の計画作成、スタートアップと試験開始

対象は DSM-5 の BN、対象者数 140（CBT-E 群 70、通常治療（TAU）群 70）とし、評価者盲検、無作為化、パラレル比較である。主要評価項目を介入終了時の BN からの回復の有無とした。「神経性過食症に対する認知行動療法の無作為比較試験」を臨床研究登録し（UMIN000031625）、NCNP と介入実施機関の倫理委員会の承認を得た。リクルート、スクリーニング、オンラインでの被験者登録・割り付け、データ登録等の体制とシステムを構築しエントリーを開始した。

2) 過敏性腸症候群（IBS）に対する内部感覚暴露を用いたビデオ教材を併用した認知行動療法プログラム（CBT-IE-w/vid）の多施設共同 RCT の計画作成、スタートアップと試験開始

研究計画「過敏性腸症候群に対するビデオ教材を併用した認知行動療法プログラムのランダム化比較研究」を作成した。対象は Rome IV の IBS、主要評価項目は IBS 症状の重症度、対象者数は 120（CBT-IE-w/vid+TAU 群 60、TAU 群 60）とし評価者盲検、無作為化、パラレル比較である。研究計画を臨床研究登録し（UMIN000031625）、NCNP と介入実施機関の倫理委員会の承認を得た。リクルート、スクリーニング、オンラインでの被験者登録・割り付け、データ登録等の体制とシステムを構築しエントリーを開始した。

3) 臨床マーカーの検証

脳画像について撮像シーケンスと収集するデータセットを確定した。NCNP で 5 例の IBS 患者を対象に治療介入前の検査を実施した。EMA について ED のスマートフォンを用いた、項目反応理論によるコンピュータ適応型質問票のシミュ

レーションを行った。IBS の多面的評価法のうちストレス評価の客観的指標として心拍変動及び身体活動の局所統計量を候補に解析を進めた。IBS の臨床マーカーの検討では IBS 患者 32 例、健常者 32 例を対照に CRH を静注し、ACTH、コルチゾール、アドレナリンの分泌反応と大腸伸展刺激に対する heart rate variability (HRV) との関連を調べた。

## 2. 次年度の研究計画と期待される研究成果

BN と IBS の RCT は介入とアウトカム評価を実施し群間で比較解析する。BN に対する CBT-E と IBS に対する CBT-IE-w/vid の有効性のエビデンスが得られると期待される。ED および IBS について横断的に、また RCT の介入前後において縦断的に臨床マーカー候補を測定し、症状との関連する、あるいは治療反応を予測するマーカーを同定する。

## 3. 行政施策への貢献度

「摂食障害に対する認知行動療法 CBT-E 簡易マニュアル」を作成した。同マニュアルを用いた「神経性過食症に対する認知行動療法」が平成 30 年 4 月保険収載された。ED の治療プログラムの開発、普及に寄与した。

## 4. 主な研究成果の発表（原著論文、学会発表他）

1) Tanaka Y, et al: Relationship between sympathoadrenal and pituitary-adrenal response during colorectal distention in the presence of corticotropin-releasing hormone in patients with irritable bowel syndrome and healthy controls. PLoS One. 6;13(7),2018

2) Kodama N, et al. Neural correlates of body comparison and weight estimation in weight-recovered anorexia nervosa: a functional magnetic resonance imaging study. BioPsychoSocial Medicine. 12:15, 2018.

3) 安藤哲也. 摂食障害におけるリカバリー. 精神保健研究. 64: 41-50, 2018

4) 安藤哲也：我が国における摂食障害治療の研究の展開. シンポジウム. 本邦における摂食障害治療のエビデンスの確立に向けて. 第 59 回日本心身医学会総会ならびに学術講演会. 名古屋市. 2018.6.8-9.